

平成30年度 京都府立南山城支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針(中期目標)	昨年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点(短期目標)
<p><b>【教育目標】</b> 「学び合い 育ち合い 自立と社会参加の力を身につける学校」 1 障害による学習上や生活上の困難を改善・克服し、可能性を最大限に伸ばし、自立するために必要な力を身につける。 2 一人一人が個性を發揮し、多様な人々とつながり、社会の中で自らの目標や夢に向かって、主体的に生きていく力を養う。</p> <p><b>【経営方針】</b> 1 安心で安全な教育環境を整え、組織的、計画的で効果的な学校経営を推進する。 2 いのち、健康及び人権の尊重を基本に、児童生徒一人一人の障害や教育的ニーズ等に応じた指導を充実する。 3 卒業後の自立と社会参加を目指して、子どもが主体的に学び合う、質の高い授業づくりや教育活動を推進する。 4 医療、保健、福祉、労働及び教育の関係諸機関と連携し、子ども(保護者)の願いを基に、生涯にわたる一貫した支援を推進する。 5 センターの機能を發揮し、支援ネットワークの構築を通して、地域における特別支援教育の充実を図る。 6 地域に開かれ、地域と共にある、特色ある学校づくりを進め、インクルーシブ教育を推進し「共生社会の実現」を目指す。</p>	<p><b>【組織運営】</b> ・重点を意識した教育課程や校務部運営について改善が図られている。働き方改革を意識した組織運営を検討していく。 ・保護者の意見を取り入れた学校評価に取り組み、学校経営の検討を行い教育目標の改定を行った。改定した教育目標達成にむけ組織運営を検討していく。 ・学部での授業研究の成果が見られた。公開研実施への取組の過程で授業改善に取り組む全校的な研究運営を進める。</p> <p><b>【教育課程・学習指導】</b> ・昨年度検討された通知表の改善、時間割の改訂、高等部コース制の方針に基づき運用を検討していく。 ・「主体的・対話的な学び合い」の授業改善に向けた実践が各部で取り組まれている。公開研実施にむけ成果と課題を全校で共有していく。 ・重度の生徒の実習の工夫が行われた。高等部コース制と連動した職場開拓など就労希望実現への取組が今後の課題である。</p> <p><b>【支援・地域連携】</b> ・特別支援連携協議会を発足させ、地域にペアトレやTトレMIMの普及に努めた。圏域の実情に見合ったLD支援の工夫や高校生支援を進めるネットワークの構築が課題である。 ・全学部で地域との交流を意識した実践が実施されている。インクルーシブ教育の理念を広げる生涯スポーツ活動や近隣学校等への貢献活動が課題である。</p>	<p>1 いのち、安心、安全の重視と確保 (1) 日常的な安全管理システムを確認・徹底し、災害や事故等への備えを整備する。 (2) 医療的ケアの体制を充実し、適切に実施する。 2 授業改善と教育課程の検討 (1) 子どもの主体的・対話的な学び合いを大切に、個々の資質・能力の伸長を目指し、授業改善を進める。 (2) キャリア教育の視点と「新学習指導要領」を踏まえ、小中高の系統性のある教育課程の構築を進める。 (3) 希望進路の実現を目指し、高等部コース制の準備等、職業教育の充実を図る。 (4) 卒業後の社会生活を見通した自立活動のあり方について検討する。 3 専門性の向上と人材育成 (1) 全校的な研究テーマのもと、実践研究を推進し、「公開研究会」等により、広く発信する。 (2) これからの特別支援教育を見据えた研修を組織的・計画的に実施する。 4 関係機関との連携による支援 (1) 保健・福祉等の関係諸機関や保護者との連携のもと、特別支援学校が担うべき修学に係る支援を進める。 (2) 特別支援教育のセンター的役割をより効果的に果たすべく、地域支援センターの機能や運営を改善・整理する。 5 地域に開かれ、地域と共にある、特色ある学校づくり (1) 社会とつながり、地域の教育的資源を活かした、南山城ならではの教育活動を推進する。 (2) 子どもの姿や取組・交流の成果を広く発信し地域から期待される学校を目指す。 6 組織的な学校運営と、働きがいのある職場づくり (1) 新設特別支援学校開校を見据え、同時に「働き方改革」を踏まえて、円滑で機能的な学校運営に向けた組織や業務の再構築を進める。 (2) 学部を超えた「協働体」として、教職員間のコミュニケーションを図り、相互理解のもとに業務に当たる。 (3) 時間外勤務の縮減、メンタル不全等の未然防止、職場復帰への支援など、職場環境や業務の改善にむけた具体的方策を進める。</p>

	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
				部門	総合	
組織・運営	学校経営	・組織的計画的に効率的な学校運営を行う。	・重点目標を意識した、学部や校務部の運営を行う。 ・働き方改革を学部や校務部の運営に生かす。	○	○	・5つの特別会議を推進し、オリパラ教育・公開研・コース制で成果が見られた。重点課題を推進するには特別会議は有効だが、課題が多く会議設定が難しかった。 ・各学部で働き方改革の取組として副教務を導入し、学部運営や全校校務の一助となった。
		・組織運営や指導体制の在り方	・教育アンケート等を充実させ評価を学校経営に生かす。 ・キャリア発達の視点や学校教育目標から、学部毎の教育目標を検討する。	◎	◎	・教育アンケートでは、内容を精選した通知表の改訂が保護者9割の支持を得た。学校安全に関する発信をすることで、保護者との防災上の具体的連携の弱さも見えた。 ・キャリア発達の視点から合わせた指導の実践が進んだ。各学部の教育目標の設定は次年度に繰り越した。
		・学部間や校務間の連携の向上を行う。	・公開研実施に向けた授業改善研究を全校で進める。 ・自立活動の組織的位置づけとその人材育成の検討を行う。	○	○	・公開研に向けて3回の授業研を行い、オブザシート等改善ツールを導入した。 ・みんなで取り組む自立活動を目指して流れ図に取り組み、学部での人材育成を軸にした持続可能な自立活動担当者の登用のための組織検討を進めた。
	安心安全 危機管理	・いのち、安心安全の重視の取り組みを推進する。	・児童生徒への安全教育について生徒指導部を中心に検討を行う。 ・安全意識の向上を図る研修・訓練を実施する。	○	○	・防災だけでなく学校安全会議として教育課程と一体化させて安全教育をすすめる準備をすすめた。 ・SNSに関する生活安全教育を実施した。民間協力と自前教材の調整が課題。
		・危機管理の組織的な対応力を向上させる。	・生活・災害・交通安全を統括する学校安全会議の組織運営の検討。 ・避難訓練や防犯訓練を適時実施して、安全教育を推進する。	◎	○	・防災会議から学校安全会議に改変することで、サイバーセキュリティー等様々な学校安全課題に取り組んだ。 ・PTAや保健所に参観してもらって避難訓練を実施して、児童生徒の様子を把握してもらえた。
		・医療的ケアを適切で安全に行う。	・医療的ケア安全委員会を中心とした研修を計画的に行う。 ・個別の緊急対応訓練を複数回実施する。	○	○	・3号研修で9名が新たに資格取得し格取得者や研修修了者の記録簿を作成。 ・緊急訓練を繰り返すことで、他の緊急場面でもスムーズに動けるようになった。

	研修育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>初任～2年目、中堅教諭の組織的な研修を行う。</li> <li>特別支援学校における専門性の向上をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手教員の研修支援プログラムを検討する。</li> <li>基礎的で幅広い研修を計画的に実施する。</li> <li>人権研修を計画的に実施する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修案内や教材研究日の活用の改善が図れた。</li> <li>同和問題以外に貧困問題や特別支援教育からの視点で人権研修を実施した。</li> </ul>
	研究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的な学び合いを引き出す授業改善」をテーマに各学部の授業改善研究を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究プロジェクト会議を継続し、各部の授業改善研究を推進させる。</li> <li>地域や関係者に本校教育の理解促進のために公開授業研究会を開催する。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究・教務・学部が一体となって取り組む研究活動スタイルを作ることができた。</li> <li>授業改善の理論化・授業評価ツールの普及・リーフレット製作配布で本校の教育を地域に発信することができた。</li> </ul>
教育課程・学習指導	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領の理解を深めキャリア教育の視点等を基に教育課程の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程検討会議を定期開催し新学習指導要領の観点別評価等の理解を深め指導計画の改善に生かす。</li> <li>高等部コース制の実施を前にして、教育内容の整理検討をする。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>午前枠の授業時間を拡大してダイナミックな授業が取り組みやすくなった。</li> <li>新学習指導要領を生かしたカリキュラムマネジメントの取組が課題。</li> <li>高等部コース制について次年度から新設開校までの段階的な計画を作成した。</li> </ul>
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標に基づく授業改善の取り組みを進める。</li> <li>地域資源を活用した授業を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの主体的な学び合いを引き出す授業づくりを研究部と学部で推進する。</li> <li>地域資源活用の取り組みを各部で実践し発展させる。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部で合わせた指導を中心に実践研究が進んだ。</li> <li>小中で外国語活動を月1定例化して、新しい教育内容が創造できた。</li> <li>地域での清掃活動等新たな取組が始められている。計画性が課題。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の人権を大切にすることを充実させる。</li> <li>適切な生徒指導を行い、事象の共有化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活安全教育を全学部で取り組む。</li> <li>主権者教育等を充実させ人権教育を教育課程に位置づける検討を行う。</li> <li>指導事象を共有化する関係者会議やSCを組織的に行う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の緊急携帯メール連絡を設定した。小学部中学部に生活安全教育の計画の検討が課題。</li> <li>生徒会選挙も含め主権者教育について教務部とも連携して教育課程に組込むことや授業内容作りが課題。</li> <li>不登校問題で研修会を実施。生指部とスクールカウンセラーとの連携を強めた。</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望進路の実現と進路開拓を行う。</li> <li>進路指導についての学部連携を強める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等部コース制に連動させた実習先開拓と実習に取り組む。</li> <li>新しい進路関連施策の理解を深める職員研修を行う。</li> <li>進路相談や学習会を中高で連携して計画的に実施する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都ジョブパークとの連携で就労先開拓や生徒の進路教育等に取り組んだ。</li> <li>事業所見学を実施した。</li> <li>中学部の職場体験の実施や、高等部コース制実施を見据えた進路指導の中高連携が進んだ。</li> </ul>
地域連携	地域支援・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の支援力向上のために相談支援を進める。</li> <li>教育、保健、福祉等とのネットワークの力で支援や連携を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域の実情に見合ったLD支援の工夫や高校生支援を進めるネットワークの構築に着手する。</li> <li>関係者会議やケース会議にSSW等地域のリソースを積極的に導入して取り組む。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域支援コーディネーター3名体制と新センター室への移転で相談事業の環境基盤が向上した。高校支援についての研修や、特別支援連携協議会での医療連携について協議等新たなテーマに取り組めた。新人スタッフのOJTも目的とした外部支援者の招聘が課題。</li> <li>関係者会議やケース会議の調整にスクールソーシャルワーカーを招聘しスムーズに事象が進められた。</li> </ul>
	地域教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流および共同学習を充実させる。</li> <li>学校の取り組みを積極的に地域へ発信する。</li> <li>インクルーシブ教育推進のために地域での教育活動を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校間交流等地域との交流を計画的に推進する。</li> <li>ホームページ等学校広報活動を充実させる。</li> <li>生涯スポーツ・地域貢献活動等地域との多様な取り組みをインクルーシブ教育活動部を中心に開発する。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動に地域貢献やオリパラ普及の役割を持たせるためにインクルーシブ教育活動部に改変し、いくつかの新しい地域交流のモデルが模索できた。メディアへの発信も重視しKBSの取材放映が2回行われた。</li> <li>学部だより等にQRコードを掲載することでホームページ閲覧数が増えた。</li> <li>TOYOTA京都の応援も得て第3回ボッチャ交流大会を成功させた。新規取組の実施に合わせて、従来の取組と新規取組の調整をすることが課題。</li> </ul>

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の工夫を進めていくには、若い先生方がどのように研修を進めていかれるのか、またベテランの先生方が新しい教育の知見をどのように吸収されていくのか、職員全体の研修の在り方にも左右されるのでじっくり取り組んでほしい。</li> <li>本校は立地上アクセス道路が狭く、校地もプレハブ建て増しのため避難や救援にも課題がある。地元の関係機関や地域とも連携して防災上の課題を検討してほしい。</li> <li>この学校の交流教育はすばらしい蓄積がある。木津川台小学校との交流では子どもたちが本当に優しく仲間に接するようになっている。また、高等部生が小学校で清掃作業をしてくれることで、小学生が真剣に働く高校生の姿に影響を受け、良いお手本となっている。</li> <li>保護者と先生方のコミュニケーションは難しいこともあるが丁寧に進めてほしい。</li> </ul>
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に授業の丁寧な説明を行うなど、新学習指導要領を生かした「地域に開かれた教育課程」を具体化して推進していく。</li> <li>学校安全で防災について災害時にどのように行動するのか保護者の方への説明の機会を学部毎に設けるとともに、防災教育のカリキュラムマネジメントに取り組む。</li> <li>自立活動の時間の指導の交流など、学部での授業研究に取り組み授業改善を進め、全校で自立活動に取り組む。</li> <li>スクールカウンセラーや校医、生徒指導部と連携しながら、児童生徒の学校精神保健課題に取り組む。</li> <li>高等部コース制のスタートにあたり、職場開拓や進路開拓につながるカリキュラムマネジメントに取り組む。</li> <li>地域資源をさらに活用するとともに、地域行事の整理や精選に取り組む。</li> <li>働き方改革と授業改善を両輪にした学校運営を更に推進していく。</li> </ul>
---------------	--